



# サービス 通信

富士重工業株式会社

本社：東京都新宿区

西新宿1-7-2 (スバルビル)

NO. FAS-062

発行 46年11月25日

- 1 標 題 STA6779円框，軽減孔フランジ，割れ発生防止対策及び修理
- 2 適用機体 FA-200シリーズの機体で製造番号#2～#134号機の機体及び航技研機
- 3 適用度 要望事項
- 4 目 的 地上でエレベーターを規定舵角以上に強く動かした場合などにSTA6779円框軽減孔フランジがエレベーターペルクランクにたたかれ割れが発生する事例があつたので円框部にストツパーを新設し，割れがある機体には修理を実施する。
- 5 指 示 STA6779円框軽減孔フランジの割れの発生している機体は修理を実施した上でストツパーを新設のこと。割れていない機体はストツパーのみを新設する。
- 6 実施時期 このサービス通信受領後の最初の1000時間点検時
- 7 承 認 航空局承認 (NO, -東-032) 46.11.15
- 8 所要部品 この作業には下記の部品が必要である。

部 品 番 号	部 品 名 称	1機当個数
200-440055-15	STOPPER	1
MS35206-249	SCREW	1
NAS679A08	NUT	1
AN960D8L	WASHER	2
34315-3	DOUBLER	1
MS20470AD4	RIVET	AR

- 9 特殊工具 な し

FAS-062

PAGE 1 OF 4

10 重量重心 変化なし

11 準拠資料 なし

12 所要工数 12MH

13 作業手順

- (1) 尾部受台（ロッド）を準備し、尾部が下らない様にセットする。
- (2) 后胴内に入るため必要なカバー類を取りはずす。
- (3) 后部胴体最后部左側点検カバー取りはずし、軽減孔フランジを点検し、点検の結果割れの発生していない機体は10項以降を実施する。
- (4) ラダーコントロールケーブルとラダーを結合しているボルトを取りはずし、ケーブルをゆるめる。
- (5) 后胴部にあるターンバックルでエレベーターコントロールケーブルをゆるめる。
- (6) 后胴部にあるターンバックルでエレベータータブ・コントロールケーブルをゆるめる。この前にエレベータータブ・コントロールホイールの指示針を中立位置にしておいてその時のタブの関係位置を測定しておく。
- (7) エレベーターブッシュ・プルチューブベルクランク結合ボルトを取りはずす。
- (8) STA677.9円框軽減孔フランジを点検し、エレベーターベルクランクと当り割れの発生している機体は、割れのある軽減孔フランジを図-3の要領で切欠く。
- (9) 前項で切欠いた位置にダブラー、34315-3を図-2の要領で打紙取付ける。この場合ダブラーの軽減孔フランジは後向きになる様に注意し、作業する。
- (10) ストッパー200-440055-015を図-3のチャネルの間に仮付し、ストッパーの孔を案内に： $\frac{1}{7} \frac{6}{4} \frac{5}{4} \text{IN} \emptyset$ の孔を穿孔する。
- (11) 前項で穿孔されたならばストッパーをスクリーン、MS35206-249、ナット、NAS679A08、ワッシャー、AN960D8L（2ヶ）で取り付ける（図-3参照）
- (12) エレベーターブッシュ・プルチューブをベルクランクに取付ける。
- (13) エレベータータブ・コントロールホイールの指示針を中立位置でタブ位置が前項6の値になる様后胴内のターンバックルにケーブルを接続し調整する。この時ケーブルテンションが規定値内にあることを確認する（サービスマニュアル項目8-6-3）

参照) ターンバックルにからげ線を施す。

- (14) ラダーコントロールケーブルをラダーに取りつける。
- (15) 后胴内のエレベーターコントロールケーブルをターンバックルで接続し、サービスマニアル項目8-5-3を参照し、エレベーター系統の調整を行う。
- (16) 操縦系統を作動し、当り、誤結合等のないことを再確認する。
- (17) 前項1~3の逆作業を行う。

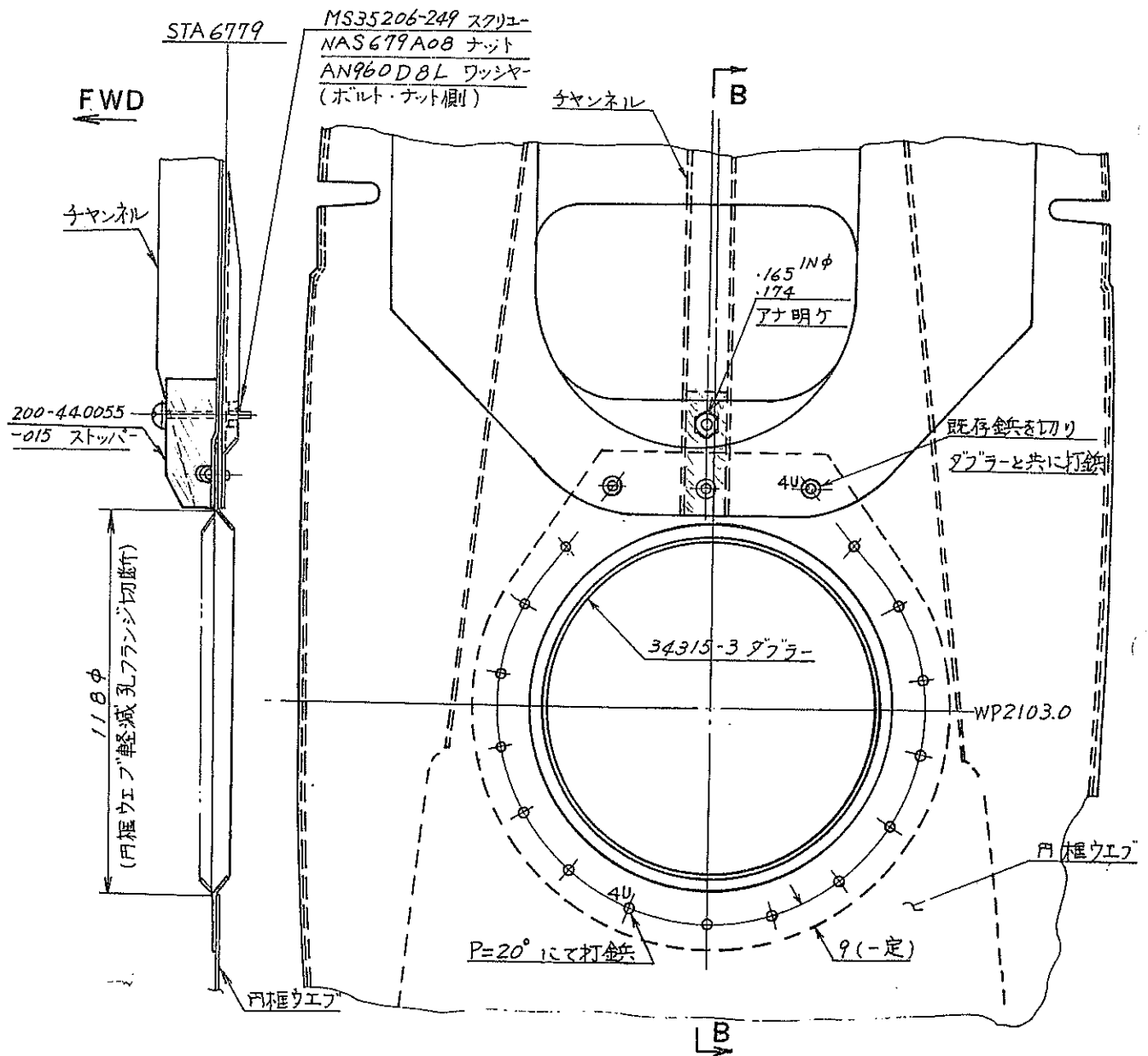
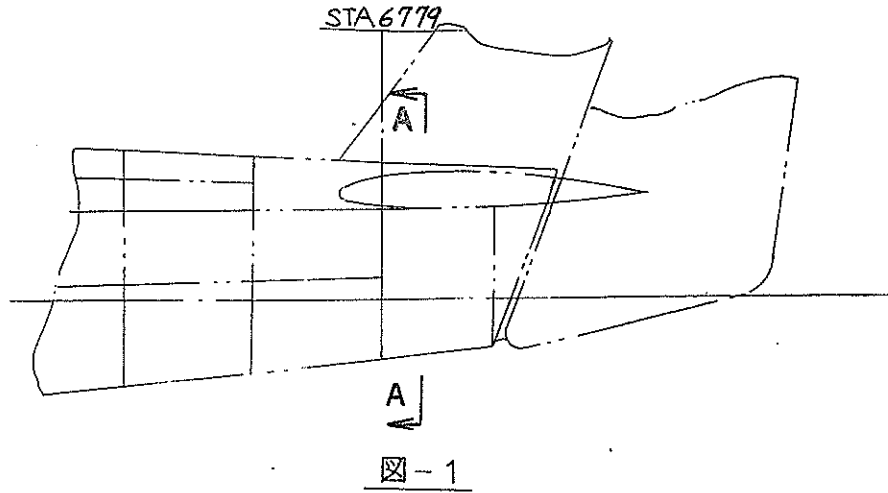


図 - 3 矢視 B - B

図 - 2 矢視 A - A